

第1問題

問1	A			
問2	造形的な視点			
問3	ア	広がり	イ	水平線
	ウ	消失点	エ	B
問4	A	B		
問5	(題材名) 生命力を五感で感じて～“自分の樹”を描こう			
	(理由) “自分の樹”とすることで、生徒が題材を自分事と捉え、自分が樹から感じた生命力をどの色や形で表現することが最も良いか、試行錯誤して主題を生み出しやすくするため。			

第2問題

問1	B			
問2	B			
問3	色についてイメージに近づけるために何度も試すことができる。			
問4	(1)	ア	(ポスター記号) C	(様式名) アール・ヌーヴォー
		イ	(ポスター記号) B	(様式名) アール・デコ
	(2)	リトグラフ		

第3問題

問1	(1)	C		(2)	リピテーション
問2	(1)	ア	顔料	イ	水彩絵の具
		ウ	乾性油		
		(2)	テンペラ		
問3	(1)	ア	塑造	イ	彫造
	(2)	ウ	しゅろ縄	エ	麻ひも
問4	(1)	ピクトグラム		(2)	ユニバーサルデザイン

第4問題

問1	ア	奈良	イ	阿修羅
	ウ	興福	エ	漆
問2	高畑 勲			
問3	有田焼			
問4	エドワード・マイブリッジ			
問5	(1)	アンディ・ウォーホル	(2)	
問6	志村 ふくみ			
問7	(1)	(作品名) 泉	(作者名)	マルセル・デュシャン
	(2)	レディ・メイド		
問8	(1)	ルネ・マグリット	(2)	デイズマン
問9	(1)	光の教会	(2)	ミニマリズム
問10	オ	減法	カ	印象派
	キ	スーラ	ク	点描

第5問題

この作品は、中央に伸びる道が印象的な作品である。道に見える陰は薄く表現され、全体が柔らかい色調で表現されている。静かで落ち着いた印象を受ける。画面中央に道を大きく描いた大胆な構図で、道そのものが強調されている。道を進んでいくように視点が移動し、道の先が見えないことから、その行く末に迷いや不安を想像せざるを得ない画面構成となっている。描かれた視点に立って一步踏み出そうとした時に、道だけの風景を前にして、進むか戻るかだけを考えてしまう。「今、この時」にどう対峙すればよいかといった人生への迷いや、明け方、遠くには何もない道だけを描いた情景から、自身の人生は不安だが、その道は誰にもあり、何かにつながっていることを表現したのではないだろうか。